

第 11 期 松戸市緑推進委員会

第 2 回委員会

1. 日時 令和 2 年 9 月 28 日 (月) 10 : 00 ~

2. 場所 松戸市役所 大会議室 (新館 7 階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男・河合直志

小嶋 功・石川静枝・藤田 隆・高橋 節・狭間明美・江口亜維子

○松戸市

森岡浩司 (街づくり部審議監)

斉藤寛之 (公園緑地課課長)

布施 優 (21 世紀の森と広場管理事務所所長)

竹内茂樹 (公園緑地課課長補佐)

大塚 崇 (公園緑地課課長補佐)

青柳洋一 (みどりと花の基金理事長)

田辺久人 (みどりと花の基金事務局長)

○兼事務局 (みどりと花の課)

岸 秀一 (課長)・三末容央 (専門監)・北川茂和 (課長補佐)・稲吉かなえ (主査)

井上毅 (主任主事)

○LAU 公共施設研究所 (松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野

○傍聴 なし

事務局より本委員会の成立について、委員 15 人中 12 名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

1) 議事要録の確認について

2) 緑の基本計画の策定について

◆ コロナ禍における「みどり」について

◆ みどりのサロン部会 今年度の活動予定について

3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

1 議事

議事 1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した議事要録について異議はあるか。

無ければこれを以て議事要録とする。

—承認—

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1 として、「策定のスケジュール表」。

資料 2 として、「松戸市みどりの基本計画（原案）」。

資料 3 として、「with コロナ 検討資料」

資料 4 として、「みどりのプラットフォームイメージ（たたき台）」

資料 5 として、「ナラ枯れ資料」。

以上が本日の配付資料です。

過不足がございましたらおっしゃってください。

なお、「松戸市みどりの基本計画（原案）」につきましては、次回以降の委員会でも使用しますので、このファイルごとお持ちいただきますようお願いいたします。

それでは、「策定スケジュール」からご説明いたします。

一番上の行の左端の備考欄をご覧ください。緑の基本計画は、来年、令和 3 年 9 月にパブコメを実施、同年 令和 3 年 12 月に策定、その翌年 令和 4 年 1 月から施行することを目指しています。

なお、このスケジュールは、同時期に策定作業を進めている「松戸市都市計画マスタープラン」と足並みをそろえたスケジュールとなっていることを補足いたします。

従いまして、緑の基本計画につきましては、今年度中にパブリックコメントに出す計画の素案をまとめ上げることとなります。

この素案の策定に係る本委員会の審議につきましては、本日 9 月 28 日と 12 月及び 3 月の 3 回となります。

この 3 回の委員会で審議していただく事項についてご説明いたします。今般のコロナウイルス感染症の蔓延により、外出自粛や在宅勤務、また子供たちにとっては思うように友達と遊べず、学校にも通えず自宅学習を強いられるなど、これまで送ってきた日常生活が当たり前ではなくなったことにより、生活のスタイルが変化してきました。このコロナをきっかけに「みどり」がどのように新しい生活に関わっていけるのか、また、それらをどのように計画へ盛り込んでいくのかについてご審議いただきます。

よって、委員の皆様には、計画の原案を見ながら議論を進めていく必要があることから、原案の全編を配付させていただいております。

なお、こちらの原案は、関係課の意見等を反映させる前の段階のものです。また、今後 市長及び副市長に計画書の説明をしていくなかで、施策の重要度の強弱の付け方や表現の方法などが変わってくる場合もございますので、予めご了承ください。

会長

策定スケジュールについて何か質問はないか。

新しい人は新鮮な目で見てほしい。

議事 2) 緑の基本計画の策定について

◆ コロナ禍における「みどり」について

事務局

では、緑の基本計画の策定についてご説明いたします。策定スケジュールの中で少しお話しさせていただきましたが、本日は、コロナ禍におけるみどりとの関わり方について、どのように計画に盛り込んでいくかをご審議いただきます。

ご審議にあたり、本日は、参考資料として、コロナ禍における公園の利用についてや他市の事例、国交省の資料を配付しております。また、議論のきっかけとなる 15 分程度の動画を用意しました。こちらの動画は、コロナをきっかけに、東京から郊外へ引っ越した事例や、マンションの付帯設備として整備されている みどりの公共空間について 重要性が認識され始めているというお話です。時間の都合上、途中早送りをさせていただきます。まずはこちらをご覧ください。

——— 上 映 ———

動画は以上になります。コロナの影響により、住まいに対して意識が変わってきたという事例を紹介しました。

次に、with コロナを検討するために配付した資料ですが、会長から参考資料としてご提供いただいたものです。

まず、パークフルという公園の情報を発信しているホームページの記事です。With コロナ時代、新しい公園ライフのススメという特集が組まれており、ソーシャルディスタンスを守りながらの遊びの紹介や、運動不足の解消、3 密を回避した新しい働き方ができる公園などの紹介がされています。

次に、同じくパークフルの HP ですが、コロナ禍において実際の公園での過ごし方、利用のされ方の様子をまとめたものです。

次は、流山市の公園での青空テレワークについての記事です。子どもを公園で遊ばせながら、母親がノートパソコンで仕事をしている様子が紹介されています。都心のベッタウンとして子育て世代が多い流山市ならではの、新しいワークスタイルの紹介です。

次は、川崎市の事例です。こちらは川崎市が所管しており指定管理者制度により管理運営がされている施設です。「子ども夢パーク」は、子どもたちが自由に遊ぶことができるということをモットーにしており、コロナ禍という緊急事態だからこそ大切なことが学べるきっかけにしたいとの思いから、施設を閉鎖せずに子どもたちを受け入れている事例です。

次は、墨田区の事例です。これは、行政が with コロナをチャンスと捉えて新しい公共施設の使い方の可能性を探り、行政職員が自ら公共空間を利活用することで、地域や民間事業者へ利活用の PR をすることを目的に、庁内職員用の屋外会議室として「そよ風会議室」というプロジェクトを実施しているものです。

最後は、国土交通省から出されている資料です。新型コロナ危機を踏まえ、今後の都市のあり方にどのような変化が起こるのか、今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため、都市再生や都市交通、公園緑地や都市防災のほか、医療、働き方など、様々な分野の有識者の方々に個別ヒアリングを実施し、都市のあり方についてまとめたものです。特に緑の基本計画に関わっ

てくる内容は、オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性についてです。グリーンインフラの効果を戦略的に高めていくことの必要性、ウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせるネットワークをつくることの重要性、また、地域のニーズに応じたオープンスペースを柔軟に活用することの必要性などが 今後の方向性として掲げられています。

以上、簡単ではございますが事務局からの説明となります。ご説明した内容を検討材料のひとつとして、コロナ禍におけるみどりの関わり方、計画への反映のさせ方についてご審議いただけますようお願い申し上げます。

会長

今日は「緑の基本計画」の中に含め得る観点は何か自由に意見を頂きたい。例えばコロナ後、みどりへの付き合い方、感じ方の変化など、皆さんの身の回りで最近感じたことはないか。

公園の新しい使い方について、一つはコロナの禍中なので安心・安全に配慮して公園で遊んでもらわなければならないというネガティブな影響への対応と、他方公園の価値を高めるような新しい使い方の発信にみんなが「いい」という認識で後押しするという両面の考え方がある。前述の説明のように、流山の公園でオフィスとして使っている例は、新しい価値が生まれてきている使い方の例であり、大きなイベントがやりづらくなっている 21 世紀の森と広場のように、ネガティブからどのように身を守り安全・安心に運営をしていくかを模索するような二つ側面を持っている。私は学生の登校がなく WEB 授業へと形態が変わったことで時間の使い方に余裕ができ、家で庭仕事をする機会が増えているが、皆さんは如何か。

委員

所属している「松戸まちづくり交流室」では、例年千葉大学のインターン生を受け入れているが、大学のスケジュールが過密でインターン活動のための時間確保が困難であった。しかし、コロナの影響で大学がリモート講義になり、時間を柔軟に使えるようになった。その結果、インターン活動が以前よりもし易くなった。また、NTT の研究開発部門の方の話では、これまでは会社ベースの生活を送っていたが、リモートワークがより進めば時間の使い方が柔軟になっていき、会社や組織から離れている時間が増えるとともに、時間の使い方が多様化するだろうとのことであった。会社以外の別の場所で新しい人やものと接し活動をすれば、そこでの信頼関係が大切になってくるだろう。流山の例も業態は施設提供者と利用者であるが、一種の社会変動である新型コロナウイルス感染症に対しては、単なるサービスの提供ではなく、コロナという問題点をクリアしながらのサービスの提供になるので、提供者と利用者との相互理解や信頼が必要になってくると思われる。

会長

IT 関係に就職した卒業生と連絡を取った際に会社への出社の頻度をきいたところ、週一回出勤をしているが、「会社に行くのが気分転換になる」との答えにすごい時代になったと実感した。学生はオンデマンドで自分の好きな時間に講義を見ることができるようになり、これまで出席しなかった学生がちゃんと授業を見ていると教員の間で話題になった。一方で、学生に限ったことではなく社会一般的に人間関係が孤立化しているように感じる。

委員

普段子どもや子育て家庭に関する仕事をしている。新型コロナウイルス感染症が拡がり始め、学校が休校になったときに公園で子どもを遊ばせると、「子どもが公園で遊んでいていいのか」という苦情があった。しばらくすると、公園の遊具には黄色いテープが貼られ使用が禁止された。コロ

ナ禍において、ひとの考え方は様々であり、家の中で騒いでいる子どもを外で遊ばせたいと外へ連れ出す人もいれば、外出してはいけないという世情から外出を控えた人もいた。

先の動画に、家で夫が仕事をしているから母子が外に出るところは少々気になるところだったが、どちらでも選択できる環境を整えていくことは大切である。価値観はそれぞれで、生活のパターンも多様。テレワークは増えているが、そうでない仕事をしている人も多い。このようなコロナ禍にありながら、人間らしい生活を突き詰めていくと環境に愛着が湧き、地域のみどりや公園の使い方が重要になってくる。貧困者や高齢者などを含め、誰もが「ここにくるとホッとすると感じるような場所をつくりたいと思う。しかし、公園でテレワークをすれば「子どもたちの声がうるさい」という新たな問題が出てくるだろう。コロナを機に改めてみんなが公園を身近に感じ、憩いを求められる場になるとよいと感じた。

会長

先ほど孤立化が進んでいるといったが、家族内では一緒に過ごす時間が増えている状況はある。

委員

私が平成3年まで過ごしていたの都内のマンションの生活を思い出した。建築家がもう少し早く気づいてくれていたらと思う。当時、夫は3LDKの自宅マンションのダイニングテーブルに資料を並べPCで仕事をしており家族は居場所がなかった。そこで私は、夫の仕事中には子どもを近くの公園に自転車で連れ出した。しかし、その公園は、してはいけないことが多く、気が休まることはなかったが、家で邪魔になるよりは良いと思った。あちこちの都市公園を巡ったが、どこもやってはいけないことが多く、多くの遊具は有料だったと記憶している。子どもは自由な発想で遊ぶことが大切だと思うが、それが禁止されることはストレスだろうと思った。松戸に越して住環境は変わり、子どもは自由に土を掘ったり虫を採ったりして遊ぶことができ楽しんでいったと思う。このような都内での生活の経験から、松戸の公園を都内の公園のように都市化させない方がよいという思いがあり、これまで委員会で意見を言ってきた。

公園が仕事をする場所として使われるのであれば、仕事はかどる環境が求められるだろう。しかし、周りで子どもが遊んでいる環境は、仕事をする人たちにとっては騒がしいだろう。公園が仕事をする場として利用されたときに、子どもの自由な遊びに制約が生じないようにしたい。自然尊重型都市公園と謳っている21世紀の森と広場には、子どもが自由に虫を追いかけて捕まえらるような環境をつくって欲しい。

会長

今の意見で重要なことは、松戸と都内との違いをどう打ち出していくかということ。

委員

4月から6月までの自宅勤務中は、家の近くを散歩することしかないような日々を過ごしていた。あるときマラソンをしようと思い立ち、江戸川の川べりを走った。江戸川沿いの道は整備されてランナーにとって走りやすい道路だと感じた。天気の良い日は富士山やスカイツリーが見ることができ、川沿いを鳥のさえずりを聞きながら「なんて素敵なのか」と思いながら走った。都心に住んでいる人には、おそらく味わえないことだろうと思う。しかし、土日には自転車に乗ったツーリングの人が増え、走っていて危険を感じたことがあり注意喚起が必要だと思った。また、春になると菜の花やレンゲソウが咲き松戸市には美しいみどりがたくさんあるが、アピールが足りずに生かし切れていない。季節ごとにみどりを見せる工夫がほしい。またフィッシングを楽しむ人も多く、親子で楽しめるフィッシングの場所づくり等の工夫も必要だと感じた。また、

公園は公園としてだけの機能であり、そこ行きたくなるような魅力が足りないのではないかと散歩をしているときに感じた。例えば子どもが遊ぶ遊具があっても中途半端で、韓国の公園に設置してあるような大人がちょっとした運動ができる設備を設置するなどの工夫があるとよいと感じた。

会長

今の意見のように、緑の基本計画でも、身近な公園の魅力アップや情報発信をどうするかは重要であり、素案の中に入れて込んでいるが、そのとおりだと思う。ほかには、散歩やジョギングの際にネットワークとしてつなげることが重要。

委員

やはり自粛期間中はテレワークだったが、住まいのある常盤平のけやき通りを「気持ちいいなあ」と思いながら散歩することが多かった。かし、駅の反対側（北口）では歩道がないにもかかわらず、交通量が多くまたスピードを出す車もあり危険を感じたので、安心して歩ける環境が大切だと思った。千葉大学園芸学部周辺の沿道でプランター栽培のエディブルウェイのプロジェクトを行っているが、対面での活動の自粛で4月の植え替えは種を郵送し自宅で栽培してもらい、連絡はメールや手紙になった。直接会えないがプランターで育てている植物を見て元気なことが窺え、コミュニケーションが取れていることが実感できた。松戸市市民活動のひとつとしてエディブルウェイのポスターが掲示されているので是非見てください。

委員

20年前介護保険が開始されたとき、団地の中に高齢者施設が入り、その周りに住まいや公園がある街づくり構想があった。柏市の豊四季団地ではそれに沿って建て替えが進んできたところだが、「超高速から各駅停車に」のような社会変化の時期を迎えたことを感じる。そのような時期にあって高齢者や幼稚園に通う子どもを地域の中でどのように捉えていくか、これを契機に進んでいくと思う。また、常盤平団地は棟と棟の間に広い遊び空間が設け建てられており、「常盤平団地があるじゃないか。そこの桜はすごい」というアピールがあってよいと思う。

自粛期間中の4月から6月まで私たちは、市立松戸高校の裏手で森の活動と併せて畑仕事をしてきた。ほぼ毎日のように外で畑仕事をする仲間もおり、みどりとの密な時間を過ごした時期だった。

会長

緑のネットワーク松戸のツアー等の近況は如何か。

委員

10月21日に行くことにしているが、人数制限を設けたい。

委員

既に定員をはるかに超える応募があり、変則的になる。別建てのプログラムも準備している。

会長

里やまボランティア入門講座には定員が20人のところに毎年10～20人位の受講者がいるが、今年は例年になく多くの応募があるようだ。

事務局

先週金曜日の時点で応募者は29名で、内訳は男性15名、女性14名、20～39歳1名、40代～5名、50代～7人、60代～8人、70代～8人となっている。

会長

これまでの入門講座は 60、70 歳以上の男性が主だったが、今回は記録的に人数が多く、若く、女性が多い内容の応募者になった。例年と同じように広報した結果変わったということは世の中の状況の変化がわかる。

事務局

例年通り広報まつどに記事を載せて募集した。QR コードを付けたので申し込みはし易くなったと思う。

委員

石みやの森では 3m×3m を 8 区画の畑の募集を 2～5 月に行った募集を行ったところ、8 人の応募があった。看板や地域新聞をみての応募と思われるが、内訳は 80 代—1 人、70 代—2 人、50 代—2 人、40 代—2 人位で、その中に千葉大学の園芸学部の先生のご家族が含まれていて思いがけない繋がりもあった。コロナ禍にも関わらず多くの応募者があり、みどりが求められていると感じた。

委員

私自身、前職のシンクタンク時代から、必ずしも毎日の出勤が求められるものではなかったので今の生活に違和感はない。最近ではオンラインが浸透してきており、午後 3 時から夜 9 時まで WEB 会議をしている。1 日に 7、8 時間の会議をしていると、家にいても家族と顔を合わせる時間がないこともある。世の中には、働き方が大きく変わった人もいるのではないかと。私自身は、自宅の庭の手入れもままならない。気になっていることは経済的側面で、GoTo トラベルや GoTo イートの事業には大賛成であるが、財源は税金であり将来我々の子どもやその次の世代が担うことになる。どうせやるのであれば腹を括って使ってほしいと個人的には思っている。しかし、残念ながら今の貨幣価値のなかで動く市場原理では、飲食店等が経営に苦しみ潰れていくと「みどり」云々と言っている状況ではなくなっていくことは目に見えている。このような、状況において考えたいことは、一つ目は「公園」や「みどり」を経済活動の受け皿にする仕組みをつくっていくこと。国土交通省の事例にあるように、飲食店がキッチンカーの営業を始めてきているが、もっと受けられる仕組みをつくったり、GoTo イートの仕組みを導入するなど考えなければいけないと思う。二つ目はコミュニティーの崩壊について。学生の授業もオンデマンドになっており、自分主義になり自分の選択のみで動く。また、IT の流れについていけないベテラン層は半ばあきらめモードで素通りしている感がある。若い世代にしても高齢者にしても外に出たくない人が増えることで地域のコミュニティーが崩壊していくのではないかと、という危惧を若干感じており、それを改めて見直し強化するためにも地域の「公園」や「みどり」の果たす役割に期待したい。これまでの発言にもあったが、「公園」や「みどり」の使い方について公園協議会を設置し独自のルールをつくっていいという 2017 年の法改正に基づき、地域の実情に合った活用をして、個々の「公園」や「みどり」のマネジメントの在り方を追求して進めていくことを「緑の基本計画」でもう少し強調しても良いのではないかと。

委員

東京都立公園ではキッチンカーの規制緩和の動きは出ている。

コミュニティーについては、オープンフォレストでこのような時期だからこそ子どもに来てもらいたい気持ちがある一方で、高齢者は大勢が押し寄せることを望まないだろうと思う気持ちがあった。感染を避けるために人と会わないようにしている用心深い人もいて、多様な価値観により人と人とが離れていくという今の発言の通りだと思う。

公園協議会については書き込んでいると思うがもう少し強調する方向としたい。公園協議会を立ち上げ運営しているのは「ゆいの花公園」だと思われるが、さらに基盤的公園や身近な公園を含めて欲しい。

委員

コロナ禍において「みどり」「公園」の価値が再認識されているようだ。歴史的に見ても100年前のペストやコレラのような感染症の流行後に都市において「公園」が生まれてきたことは確かだ。都市の中できれいな空気を吸うことができる場所としての役割が理由としてあり、都市における「公園」は過密を避けるために造られた。3密とみどりの関係は決して古いものではなく、そういう認識を持つことは大切。従来、屋内で行われていた仕事が屋外へ出てきたという要求に「公園」や「みどり」は対応しなくてはならない。その役割はリビング・仕事場以外に飲食も加わり「公園」は半屋外としての役割も考える時代が来た。しかし仕事をしているところで子どもの遊んでいるとうるさいという意見も出てきかねないので、コミュニティーベースで公園の利活用の判断をする仕組みが必要になってくる。散歩や運動のようなストレス緩和は依然オープンスペースに求められている。従来我々は公園の通り抜けの利用には冷たい目を向けていたが、都市の公園は歩いたり何気なく通り過ぎたり役割がやはり大事だと今回再認識した。そのような利便性や安心して快適に歩ける都市空間をもっとしっかり確保する。また、人工的に整備された空間ではなく、里やまのような自然性の高い空間との接触を確保するニーズは、アンケート調査からも分かるようにより強くなってきた。その中で野菜作りや都市農業との関係として矢切は好適地であり、都市住民と野菜作りを評価するなど「緑の基本計画」の中で支援したい。

「みどりのあるライフスタイル」で議論をしてきたところであるが、「みどり」を軸として住む場所としての魅力を高めていくことが大事なことである。

会長

本日の委員会でいただいたみなさんのご意見を次のように「緑の基本計画」に反映する。

- ・生活様式の変化への対応を「計画策定の背景」に追記。
- ・「みどりの機能」に屋外空間の持つ意味を追記。
- ・個別の施策に関しては一語一語見ながら組み込む。
- ・特に、ライフスタイルが変わってきているので、基本方針4の「みどりのライフスタイルを楽しむ」に書き込む。

具体的な修正作業は事務局と私、場合によっては専門家会議を含め検討させてもらい、できれば次回12月の委員会で提案することでよいか。

一了承一

◆ みどりのサロン部会 今年度の活動予定について

事務局

みどりのサロン部会の活動についてですが、本日は、部会の今年度の活動予定についてご説明し、それについて委員の皆様からご意見やアドバイス等をいただきたいと思いますと考えております。

みどりのサロン部会ではこれまで、みどりの市民力の今後の展望を検討するうえで、大きく二つの活動を行ってきました。みどりに関する活動を行っている団体へのアンケート調査、団体同士の交流を図る「松戸みどりのフォーラム」の開催です。

これらアンケート調査や、フォーラムで得られた活動団体の意見や感想などを踏まえ、今後の活

動を継続し発展させていくための仕組みや手法について話し合いを重ねてきましたが、これまでの検討内容をまとめたものが、「みどりのプラットフォームのイメージ図」です。

特に新しく委員になられた方々にとっては、このプラットフォームのイメージがなかなか理解しづらいとは思いますが、委員会の中でいろいろ説明を聞くよりも、実際にこの部会にご参加いただき少しずつ活動をする中で理解が深まっていくものだと思いますので、是非ご参加いただければと思います。もちろん強制ではございませんし、時間のあるときに、できる範囲で活動に参加していただければ結構です。まずは、軽い気持ちでご参加ください。お待ちしております。

ではサロン部会から、今年度の活動について説明をお願いいたします。

委員

「みどりのプラットフォームのイメージ図」は松戸のみどりの活動団体がフォーラムで話し合った将来像を寄せ集めたものだが、核になることは多様な主体のコミュニティーをつくること。これまで形成されているのは「みどり」に関わる活動をしている団体で、樹林地なら樹林地、公園なら公園、花壇づくりならば花壇づくりのネットワークだったが、もっとジャンルが異なるものを有機的に結び付けたいと考えた。そこで、みどりに関する活動団体を対象としアンケート調査を行い、その結果を背景に「第1回松戸みどりのフォーラム」を開いた。その結果、「みどり」の活動の発信力を高めていかなければならないという課題と、各活動団体で共通する高齢化や資金の問題などの維持に関わる問題があるが、多様な主体に関わり新しいプロジェクトを進めることで解決できるものも多いことが分かってきた。松戸のみどりは、存在して目にはつくけれど生活を潤すものにはなっていないのではないだろうか。例えば、「21世紀の森と広場」は「みどり」が多く、市外からも多くの来園者がある。また、周辺の住人は自分の庭という意識を持っていると思われるが、それを生かして何かをやるうとは考えていない。今、再整備を行おうとしている地域公園も同様で、公園と周辺の住人の関係は疎遠になっている。コロナ禍もあって「みどり」の空間の使われ方は今後変わっていく。提供できる柔軟な内容も必要だが施設サービスをだれが提供できるかどこが誘導していくかが大きな問題となる。これは「みどり」と関わる当事者とも関わってくる。もう一つ先の、「まちとみどりの関係性」を高めていかないと、松戸の「みどり」はこんなに魅力的でこんなライフスタイルができる場所だとの情報発信はなかなかできない。

ベッドタウンの将来予想では人口減少が激しく粗密の差が大きく出るが、松戸市は常磐線という放射線に大きな交通の結節点が二つというポテンシャルによって大きな変化はないという利点がある。そのポテンシャルと「みどり」を活かした「まちづくり」の結びつき方を考えることが大事だと思う。それは一気にできるわけではなく、またこのような諮問機関がやることではない。むしろ他でこういうものをつくってもらえる工夫をしなければならない。みどりのサロン部会では、その取り掛かりのひとつとして、どのような活動がどう展開されているか、詳細な情報のストックするデータベースの作成を考えている。一気に詳細なデータベースをつくり完成させるのではなく、データベースを成長させていけるようなフォーマットを考えたい。実際に作業を通してどのような情報が必要かの検討もやっていきたい。また、コロナ禍で社会情勢が変化しているなかで、まちづくりに関わっている人たちに松戸の「みどり」をどうすれば、どのように使えるのかのヒアリングをしてはどうか。「松戸みどりのフォーラム」は、みどり関係の活動団体のみが対象であったが、可能ならばまちづくり関連の人たちと一緒にミーティングするフォーラムの場ができるとよい。コロナ禍のためリモートで行うことを想定している。第10期から引き

続き活動を行っている部会メンバーには、まちづくりの方々へのヒアリングを進めることと、フォーラムプランの作成に取り掛かり、新しい部会メンバーには、別の直ぐ取り掛かれる作業を用意したいと考えている。作業をとおして松戸の「みどりの市民力」の活動を見て、アイデアを出してもらいたい。全体像を見ながら議論をし、第1回ではプロセスをきちんとつくり提出したい。松戸の樹林地の活動のネットワークは非常に厚いのでそれを1つの資源として見ていきたい。

会長

現行の「緑の基本計画」では、「みどりの市民力」を養成し活動を広げ計画を推進してきたが、新たな計画では「みどりの市民力」のネットワークをつくることに重点を置いている。その流れの中で行ったのが、「松戸みどりのフォーラム」である。千葉大学において様々な団体の方が集まり行われた。今回の提案は、部会の活動とまちづくりとの連携を考え、まずはインタビューなどによりデータ集めを行い、できればフォーラムの形式で「まち」から見た「みどり」への期待を見つけ出していきたいとのことであった。新たな計画で目指す市民力のネットワークを、計画が策定される前に少し動かし、実効的な動きにしていくことが基本的な考え方。これまでの委員の方ももちろん、新しい委員の方も是非顔を出して議論に加わっていただきたい。

今後の動きに意見はないか。

委員

このようなプロジェクトありきの方が進みやすいが、球はあるのか。

委員

松戸の樹林地活動のネットワークは他と比べるとかなり厚く、コミュニティ化しているところもある。団体全体を見ている世話人会も連絡はネットでやっている。このように、大きな母体があり実際にフィールドがある。その外側にパートナーシップ型やネットワーク型のまちづくりをやっている人が何人かいるので去年から声を掛けてきた。話を聞くと、「みどり」は大事だとは思っていても「みどり」の活動やフィールドに関して意識をしていない。そのあたりを話し合いたい。例えば、町田市の四季彩の杜では、西園を新しく開園しまちと公園の接ぎ手に当たるようなカフェやフリースペースの空間をつくっている。そこまできちっとしたスペースをつくらなくても緑地の周りにそのような機能を見つけ接ぎ手にできないか。例えば21世紀の森と広場を例にすると、八柱や常盤平の店舗を使い、そこにいろいろな情報が集まるツイッターハウスのような機能を持たせて、ワイワイと話しながら公園の可能性を探っていきたい。

委員

まずはやることありきでスタートし、あとはそれにどんどん乗ってくるようなスキーム、仕掛けを一つ入れていくことが大事。今はネットを見る人が多くなってきているので、情報発信も最初からハードルを上げる必要はなく、メンバーに若い人がいれば「松戸のみどりシリーズ」のようなものをインスタグラムで少しずつ発信していく。研究室の学生の活動を見ていると、「こんなことを一緒にコラボしませんか」の発信をすると年間7~8本入ってくる。今も捌ききれない状況だが、そうすることでどんどん活動の幅が広がってくる。

委員

里やま応援団の中にはものづくりがうまい人が多く、自作した作品を緑と花のフェスティバルで販売しており、非常によく売れている。

会長

今どんなまちづくり活動団体があつて、実際どんな活動をやっているか、例えば、里やま応援団の年間プログラムには子どもたちのグループと一緒にいくつかの里やまを巡って遊ぶというようなことがあるが、まちづくりの範囲の活動で今のつながりをどう捉えていくかという方法と、「この指とまれ PJ」はプロジェクトありきの進め方につながるような考え方があり、両側面からのやり方がある。サロン部会で両面から動くのはなかなかだが、考え方としてはそういう軸がある。

情報発信についてはその通り。

委員

情報発信は実際どう組み立てていくか難しい。外への発信は、これまで私たちはこうやっていましたというような活動紹介だったが、それは市民が望んでいたことだったのか。例えば、里やま活動に入ったきっかけが、工作が好きで材料が欲しくて入ったり、カメラが好きで映像を撮りたくて入ったりと、必ずしも「みどり」が目的ではなかったこともあり、それを探っていきたい。あたりがあれば本格的に調査を行っていきたい。見えていないが、市内にはネットワーク型の活動をしている団体・事業者もあり、それらと繋がればという下心もある。

今日の委員会終了後、次回の部会の日取りを決めたいので参加の意思があれば加わってほしい。また、日程を知らせるので第1回だけでも覗きに来てほしい。そのような形で進めたい。

会長

本日の議論を踏まえてみどりのサロン部会の活動をお願いする。新しい委員の方々にもぜひご参加いただきたい。

議事3) その他

事務局

ナラ枯れ被害とその対策について、議事のその他にて話題提供したいとの要望がありましたが、取り上げさせていただいてもよろしいでしょうか。

—了承—

◆ ナラ枯れについて

委員

カシノナガキクイムシがナラやシイ木に入り込むことによって、一本の大木が一気に枯れてしまうような被害もあり、これが蔓延するとひと山、街のみどりが真っ茶色になるというひどい被害の可能性もある。もう2年前ほどから広がり始めている。里やま活動をしている地域を調べるとカシナガがほぼ見つかっている。松戸の場合は里やま応援団が活動する山に枯れてしまった木が見つかった。放っておけば大変なことになり、里やま応援団が入っている森では予防・防除の活動に取り組んでいるが、ほとんどの方は存在を知らず、他の緑地では放置されている。住宅に近い森では枯れ木が倒れ被害を及ぼすことが考えられる。少なくとも市が管理する公園緑地では状況の調査をした方がよい。

事務局

現在、公園緑地課、21世紀の森と広場管理事務所、みどりと花の課において、連携を図り、ナラ枯れ対策検討会を行っております。

現在、被害状況の取りまとめを行い、後日、千葉県北部林業事務所へその報告を行う予定となつ

ております。

ナラ枯れ対策についてですが、ナラ枯れの被害を受ける場所は、公園、公共樹林地、民有樹林地など、様々な形態があることから、それぞれの場所にふさわしい対応をする必要があると考えております。

従いまして、専門家のご意見を伺い、他市の対応状況のヒアリングをするなど情報収集を進めており、適切かつ現実的な対処方法を探しているところです。

また、それと同時に、対策を実施するための予算の要求の方法などの検討を進めております。

カシナガの被害は、概ね3～5年で終息すると言われておりますが、早めに対応することが重要であるとの認識を持ち対応を進めていきたいと考えておりますので、委員の皆様からも有用な情報がございましたら是非お聞かせ願いたいと思います。

また、千葉県が主催となり、「ナラ枯れ協議会」が開催される予定となっておりますので、その場において他市のとの情報共有を図っていけるものと考えております。

委員

林業関係の機関も警戒をしているが、対策は面的にしなければいけない。三浦半島の丘陵部ではかなりひどくやられているが、松戸はならないようにしてほしい。

会長

千葉大学の植生、林学、森林生態を専門とする教員の中でも大丈夫かと危ぶむ意見が出ているので市側に伝えている。おそらく専門的な知識を以てサポートが受けられるので私に伝えてほしい。

◆ 新規委員の視察・勉強会について

事務局

新たに市民委員になられた3名の方々と、9月8日の午前の半日をかけて、松戸市を代表とするみどりを巡る視察及び勉強会を行いました。視察先は、第10期委員会において行った視察会とほぼ同様ですが、「花壇ネットワーク」や、里やま応援団第9期の実際の活動を視察し、また、活動されている方からお話を伺ってまいりました。

では、参加された委員の方から感想などお話しただけですでしょうか。

委員

一言に「みどり」といっても松戸にはいろいろな種類の「みどり」あることを認識できた。さらに管理する主体も松戸市だけでなくボランティア団体やいろいろな人たちの力で管理・維持されていることが分かった。花壇ネットワークのメンバーと話せる機会があり、自分自身の活動で悩んでいた苗の育て方について、良いアドバイスを聞くことができ勉強になった。他団体と情報交換することで、個々で抱えている問題が他では難なくやっていることを知ることができると実感したので、「みどりのプラットフォーム」の充実はよいと思った。

委員

参加して松戸市がどれほど緑推進を積極的に行っているかを少しはイメージできた。そして緑の維持がどれほど多くの人の奉仕の精神により成り立っているかが分かり、改めて頭が下がる思いだ。緑の推進は10年20年の長いスパンでまちづくりを考えながらやっていくものであり、自分に何ができると気持ちが萎えそうにもなったが、自身ができることは少しでもそれを理解し、他の人に緑の推進の素晴らしさを広げられたら良いと思っている。今後は地道に公園や花

の名前を覚え、周りの人に「みどりのことは私に聞けば教えてもらえる」と言われるほどの存在になりたい。また、見学をしながら、このように緑推進を行っている松戸市はすごいと思ったが、松戸市だけでできることには限界があり、国や県とはどのように関わりあって進めていくのだろうかとも考えた。

会長

ありがとうございました。それぞれ感じられたことがあったようだが、是非委員会で遠慮なく発言を頂きたい。

1 連絡事項

21世紀の森と広場管理事務所 所長

令和2年度「21世紀の森と広場」遊具等目的設置事業について、ガバメントクラウドファンディング制度（ふるさと納税の制度）を活用して大型遊具では全国初となる寄附募集を開始した。寄附者ターゲットと用途は資料に記載の通りで寄附募集期間は令和2年9月15日～令和2年12月13日（90日間）。寄付金の使途は遊具施設整備事業の一部に充当する。お礼は、全寄附者に対しては遊具完成後のプレオープンイベント（令和3年夏に予定）に招待、3万円以上の寄附者の希望者には寄附者銘板に記名する。市内在住者に対して返礼品は贈れないことになっているので、遊具を一緒につくっていくということで頑張っていたきたい。

会長

「広場あそび」を「森あそび」「水辺あそび」「野良あそび」につなげていくことが大事で、遊具をつくって終わりではなく、遊びが多様になることが大事で、自由遊べることに繋がっていく。継続してこの取り組みをしてほしい。

委員

21世紀の森と広場のどこにできるか。

21世紀の森と広場管理事務所 所長

「光と風の広場」の上部「五本木口」周辺約1万㎡を遊具エリアとして予定。

松戸みどりと花の基金 事務局長

都市緑化基金連絡協議会 発行の広報誌「GREEN MESSAGE」に「松戸みどりと花の基金」の紹介がされており「緑化愛護団体による緑化推進活動」「松戸みどりと花のコンクール」についての記事が掲載されている。

第28回松戸みどりと花のコンクールは、現在作品募集中（9月30日まで）。団体の部、学校、保育園の部、個人の部の部門ごとに行い参加賞はチューリップの球根30球、入賞者（市長賞、議長賞等）には豪華副賞を用意している。

会長

表彰式はどうなっているか。

松戸みどりと花の基金 事務局長

審査は10月14・15日に行い、表彰式は11月16日に行うが新型コロナウイルス感染症の影響で人数の関係で市民サロンでは行えないので場所は未定。

会長

これまで表彰式は平日に市長室の隣室の推進委員会をしていた場所で、児童や生徒は授業を休み参加し、市長から表彰状を手渡されるだけでもったいないと感じていた。できれば親や学校の

友達が参加できる土曜日に行い、誰かを招いてみどりと花の話をしてもらえば拡がりができる
と提案をしたことがあったが、(今年は新型コロナウイルス感染症で状況は異なるが) 検討をお
願いしたい。

松戸みどりと花の基金 事務局長

その後ゆいの花公園で展示をしており、それを兼ねて行うなど検討したい。

委員

緑のネットワーク松戸のツアーの開催について。10月15日号 広報まつどに掲載予定。

開催日は、10月21日(水)。八柱駅集合し千駄堀のしんやまの森→芋の作の森→円能寺(七福
神を祀る)→21世紀の森と広場 約4kmを歩くツアー。

北総台地の縁にあたる松戸市内の高台から低地(松戸第6中学校そばの湧水)を巡り高低差感じ
るツアーとなる。森のボランティアがカラスの棲む暗い森だったところを整備し遊べるような
場所にしたところを是非見てほしい。定員20人で密を避け行う。

事務局

里やまボランティア入門講座のお知らせです。今年で18回目を数えます。コロナウイルスの影
響で開催も危ぶまれましたが、里やまボランティアの方々の熱意と工夫により、今年度も開催す
ることとができるようになりました。参加の申込状況についてですが、定員13名のところ、9月
24日時点で、29名もの応募がありました。内訳ですが、男性が15名、女性が14名。また、年
齢は、50才未満が6名、50代が7名、60代が8名、70代が8名となっております。60代未満
の応募が13名いらっしゃるのは大変珍しいことです。なお、定員をオーバーしているため、残
念ながら参加者は抽選となりますが、抽選から外れた方につきましては、後日、講座とは別に「1
日体験講座」を行うことを検討しているとのことです。

次回開催は12月21日(月)午前10時から予定している。場所は未定で追って連絡する。

会長

これを以て第2回松戸市緑推進委員会を終了する。

以上